

科学探査スクーナー船タラ号 2017年2月18日から4月20日まで日本に初寄港

タラ号太平洋プロジェクト（2016年～2018年）の重要なステップとなる日本への寄港では、アジア・太平洋でのサンゴ調査を実施します。フランスの探査スクーナー船タラ号は、母港のロリアン（フランス・ブルターニュ）を2016年5月28日に出港し、日本ではまず2月18日に福岡に寄港し、その後、尾道、神戸、名古屋、横浜、東京など、計9拠点に寄港します。タラ号は、先例のないサンゴ礁調査を実施する第11回目の今航海で予定されている航行距離10万kmのうち、既に3万kmを航行してきました。世界最大の大洋を7ヶ月にわたり航海する中で、タラ号は多くのサンゴ礁を観察し、サンプル採取を行ってきました。最初の分析結果から、サンゴ礁が地球温暖化によりかなりのダメージを受けていることが明らかになりました。タラ号には、15ヶ国以上から集まった乗組員たちが乗船しており、主に船員、そして複数の国際研究機関（特に筑波大学、高知大学、京都大学）からの研究者を含む科学者によって構成されています。



© Maéva Bardy / Fondation Tara Expéditions

タラ号太平洋プロジェクト：初の取り組み

タラ号のサンゴ生物学者、海洋学者、プランクトン専門家チームは、太平洋を東西南北くまなく航海し、サンゴやサンゴ礁に生息する魚たち、藻類、海水のサンプルを多数採取してきました。主な目的は、サンゴの生物多様性と現在の大変動に対応する能力をより良く理解するために、世界初となるサンゴ礁一覧を作成することです。このユニークな探査は、非常に広範囲の地域を網羅しており、これまでにこの規模で調査が行われたことはありません。2003年以降タラ号は、氷原の中を507日間（2006年～2008年）漂流したタラ号北極プロジェクトや、プランクトン調査に取り組み、『サイエンス』誌（2015年5月号）に5本の記事が掲載される結果となったタラ号海洋プロジェクトなど、11回の航海を実施してきました。

海洋生物にとって不可欠なサンゴ

サンゴ礁は海洋の表面積のわずか0.2%を覆っているにすぎませんが、海洋生物にとって不可欠な存在で、海洋生物種のほぼ3分の1が生息する場所になっています。気候や環境の変化に脅かされているサンゴ礁の健康状態は、人類、とりわけ海洋資源を糧に生活する人々にとって重要です。近年、多くのサンゴ礁が消滅しています。最近日本政府によって行われた調査によると、日本最大のサンゴ礁がある沖縄諸島の石西礁湖地域では、海水温の異常上昇により、その70.1%が死滅したと報告されています。

北野武：タラ号日本大使

タラ財団事務局長ロマン・トゥルブレは「北野武氏がタラ号日本大使を引き受けて下さったことを、大変名誉なことと喜んでおります。」と述べています。北野氏は数年にわたり「北極の氷原を漂流することもできる美しい船」タラ号の活動を見守ってきました。エティエンヌ・ブルゴワと共にタラ号プロジェクトの共同創設者であり、タラ財団の筆頭スポンサーであるフランスのファッションデザイナー、アニエスベーと北野氏は長年の友人です。彼は現在の気候変動や生態系バランスの大きな崩れについて強い懸念を繰り返し表しています。「みんなが感じていると思うけど、地球はひどいありさまなんだ。」

一般公開が行われる寄港地

福岡、尾道、神戸、名古屋、横浜、東京、下田、高知、沖縄に寄港し、一般向けの乗船体験や展示、セミナーなどを開催します。子どもたちの意識を高めるために、スクールツアーなども予定されています。



寄港地：9拠点

福岡	2月18日～22日
尾道	2月24日～28日
神戸	3月2日～6日
名古屋	3月8日～12日
横浜	3月14日～20日
東京	3月20日～25日
下田	3月26日
高知	3月30日～4月1日
沖縄	4月16日～20日

寄港地でのイベント:

- 全国・地方プレス記者会見：タラ号の調査の最初の結果について
- 無料乗船体験：乗組員が、船のことや船上での生活や科学調査、これまでの航海などを説明する一般向けイベント。オンラインにて要事前申し込み。
- 学校向けの教育プログラム（乗船体験、海洋や気候問題などについての啓発など）
- 2003年以降のタラ号プロジェクト（特に、タラ号北極プロジェクトとタラ号海洋プロジェクト）や現在進行中のタラ号太平洋プロジェクトについての展示
- 一般向けセミナーや上映会

寄港に関する詳細:

仏 : taraexpeditions.org 日 : jp.oceans.taraexpeditions.org 英 : taraexpeditions.org/en

問い合わせ先ー タラ財団

[仏英] エロディ・ベルノラン (Elodie Bernollin) – 広報責任者 elodie@taraexpeditions.org + 33 95 73 26 88

[仏英日] ミシェル・テマン (Michel Temman) – アジア地域広報担当 michel.temman@atthelacetobe.com +86 186 2185 302

タラ財団は、海洋が直面している気候変動や生態系の危機への影響を調査し理解する目的で設立されました。科学探査は権威ある研究所や科学調査機関と共同で行われています。タラ財団はまた、一般の人々や子どもたちの環境への意識を高めるための活動を、タラ・ジュニア・プログラムなどを通じて実施しています。

最後に、タラ財団は、私たち皆が地球を守るために必要な解決策に向けて具体的な進展を遂げられるよう、社会を動かし、意思決定者に働きかけるための、提唱活動を展開しています。

agnès b.

